T2

生成AIを使った提出物を成績評価してよいか

AIを使わない力を評価すべきか。AIを使って選択・検証・修正する力を評価すべきか。

共通状況

- 探究レポートと制作物が学期成績の40%を占める。
- 学校は全生徒へ同じ高性能AIアカウントを提供できる。
- AI利用時は、使用目的、原典、採否、本人修正、変更履歴を提出できる。
- 成果物の質、基礎技能、制作過程、教員の確認負担を同時に考える必要がある。

主張A

レポートや制作物でも生成AI利用を認め、最終成果物だけでなく、情報源確認、選択、修正、判断の過程を正式に評価すべきである。

主張B

学期成績を決める中核的な課題では生成AIを使用させず、自力での読解、記述、構成、推論を評価する課題を維持すべきである。

Aが守ろうとしているもの

実践的能力／検証・修正／多様な表現

Bが守ろうとしているもの

基礎技能／真正性／評価の公平性

必ず検討する問い

- AIを使った成果のどこまでを本人の能力とみなすか。
- AIを使わなかった生徒の努力をどう評価するか。
- 家庭での利用を学校は確認できるか。
- 正直に申告した生徒だけが不利にならないか。
- 書字等に困難がある生徒の利用をどう扱うか。
- 成果・過程・基礎技能を、どの比率で評価するか。

調査・制作条件

公的・一次資料2件以上／相手側を支える資料1件以上／生成AIは論点整理・検索語・構成案に利用可／AI回答を出典にしない／最終スライドは自分で作る／10〜14枚＋出典付録／自作スライドは作成者が説明

あなたの班が担当する主張：B

他班へテーマ・担当主張を明かさないでください。